


池田 眞徳さんへ

今日私は「ヒロシマの九日間」のお話を聞いて、戦争についての考え方が変わりました。

私は、この平和な平成という時代に生まれました。だから、もちろん本当の戦争というものを知りません。たまたま、テレビドラマでやっているものを見たことはありましたが、お話を聞くのははじめてでした。池田さんは、全て本当の事を話して頂きました。テレビでは聞いたことのない、広島の実実を、次々と耳にし、私は、驚きと恐怖の連続でした。中でも一番怖かったのは、助けようとして手をさしのべると、皮がむけてしまうということですよ。まさかそんなことがた、た六十年前にあ、たとは思、ていなが、たので、聞いた瞬間衝撃を受けました。もう一つ驚いたのは、子孫にも影響してしまうということですよ。池田さんは、骨が弱か、たり、歯が弱か、たりして、今でもつらいと思います。でも、強く生きていられる池田さんは、素晴らしい方だと思います。た。

今日、お話を聞くまで、本当に戦争は昔にあ、たものだと思、ていました。でも違、いました。まだ六十年しかた、ていなくて、き、と地球の歴史にしたら、一分もしくは一秒前の出来事になるのだと思います。なのに、今の時代を生きる、私たちのような人が、こんな昔の事、などと考え、ていて、こんなかんがくを、も、て



いて、いいのか、不満足になります。また、私は今だに争いをしているところがあると聞いたことがあります。だから、日本が平和だからそれでいいと考えるのはやめようと思いました。

地球全体で争いがなくなつた時、本当の平和があとずれると思います。だから、私たちが平和な世界を實現させて、将来、戦争という言葉が人々の耳に入らないような世界にしたいです。池田さんもお体に気を付けてこれからもたくさんの子供に、戦争の恐ろしさについて伝え続けて下さい。

六年二組 大島 星夏



「ヒロシマの九日間」を聞いて
ぼくはあまり昔の戦争の話や映画など興
味はなもたなかったけれどこの「ヒロシマの九日間
」を聞いて興味を持てきました。池田さん
の話も聞いて手をひっぱた時に皮膚が簡
単にとれてしまふと言ふ事を想像してしま
うだけで鳥肌がたつてしまいます。それに
なぜアメリカは日本などに爆撃など
をしてアメリカはまったく被害をうけて
いないのがとても不思議です。あと
ぼくは乗り物が好きで「B-29」と言おう
飛行機はしっていました。がまさかあんな
な兵器をつんでいる飛行機だとは思って
いませんでした。

池田 貞徳さんへ

第二電 戸小学校 6年2組
野村 雄大より

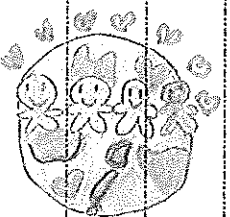
池田 貞徳さんへ

「ヒロシマの九日間」

わたしは、「ヒロシマの九日間」を聞いて、日本で悲
惨な事が起こったんだなと思いました。

「原爆ドーム」は、知っているんですが、くわしくち
ゃんとした事は知りませんでした。でも、池田
さんの話を聞いて、びっくりしました。理由は、自分
のイメージとちがったからです。わたしのイメージ
していた事は、人々は、死んでしまわず、炎がいろんな
所にあるというイメージです。池田さんのお話と同
じだったかもしれせん。しかし、二つだけ、ちがう所
があります。それは、人です。わたしがびっくりして
しまったのは、人々の話です。わたしは、銃にう
たれて人々はたおれてしまったのかなと思いまし
た。しかし、実際は原爆によって、人々
は焼け死んでしまったという事です。

わたしはこのお話を聞いて、命の大切さを
から、その命を助けようとする気持ち
がよ
く伝わりました。



平和が
続きます

六年二組

白倉 めい

池田と眞徳さん

池田さん、ぼくはあなたがたの「ヒロシマ」の九日間を聞かせてもらって思ひ、考えた事がろつあります。

一つ目は原爆^暴といふのをなくしたりいい人ないかといふ事でもぼくは原爆^暴をけんきゅうしてなにか出るかは知りません。しかし、そんなけんきゅうをしているといつかヒロシマに続く原爆^暴もよぎってしまうような気がします。ましてや今日本は戦争がない国です。が今も戦^ピ口^キを^レしている国もありません。そんな国で使われたい日本でなくても悲しくつらい事ですよ。なので、原爆^暴といふ物自体をけしたらどうかと思いました。

二つ目は、池田さんの父さんつまり三銃三さんのおりやくです。死体をほごばといふしれい^レがきたからよこばとして死体をほごばでいきました。げ、昨日の夜にうたされておぼろげなにおいがする上にかおがはかれています。人間をしれいといふのもよこばはこばたな^まということにかんづいています。そのどよよくびほろろくしていたらうらむ思ひだけになつてしまふはずの人間たちがとりかえすにやうなうらむでまよいました。

三つ目は最後のほうに言た兵隊が死体をはこびでいる所です。三銃三さんが「やれやれ」と言いたいのです。よそへく三銃三さんは何人もの死体を見ておすまじい。いさむくに入つてしまつた。たなま^まと思ひ、まゝそのまゝおくからうかたりつながら、まゝまゝは自分の死つていゝまよふとてがかった。たんでようかと思ひます。

最後、この時聞位だとおもひておぼろげなうらむがこぼれまわりました。

池田 貞徳 さんへ

「ヒロシマの九間」を聞いて。

ヒロシマは原爆を落され多くの人が死に多くの人の皮膚がただれたことがハッキリしました。

死体のきずが口から、うじ虫がでてきて、生きている人間にもうじ虫がでてくること信じることができませんでした。

まわりはがれきなどで灰色の世界でがれきを触ると焼き殺されるように熱^{ヒカ}が^ッ たんだかと田^シいました。

日本だけ原爆をおとされたのはのせおのせろうと思いましたが。

貞徳の父さんが川は^ッに熱^{ヒカ}か^ッかり人はゆでだこのよう川は^ッに熱^{ヒカ}か^ッたことが^ッ分^ッった。

戦争はともこわいものだと感じました。

「ヒロシマの九日間」

池田 貞徳さんへ

今回は、貴重なお話、ありがとうございました。

私は池田さんのお話を聞いて、原子爆弾のおそろしさ、悲しさなどが伝わってきました。実際の体験を聞き、苦しんでいる人々を助けられなかった気持ち伝わりました。非惨な現実があったこと、その苦しみが、日本だけにあったことが、私は初めて聞いた事でした。

池田さんの話では、日本に広島や長崎に原爆を落した人も、命がけで原爆を落したという事ですが、なぜそこまでして日本に落したのでしょうか。私はこの事についての知識はあまりないのですが、疑問に思う所もありました。こんな悲しい物は、世界からなくせないのでしょうか。私はこれから原子爆弾についてどのような事が、できるかを時間をかけて考えたいです。

六年二組 小貫美空瑠



ヒロシマの原爆の話聞いて 池田サスエ

六年 小板橋 統平爾

「ヒロシマの九日間」を聞いて思ったのは、ごんごんといいの頭に残って
います。なぜ、それだけの技術を持っていて、爆弾なんかに使ってし
まうかがわかりません。

池田サスエのお父さんは、どれだけ、苦しい思いでやっていたか、
思えば、思っただけ、いやな気持ちになていきます。

本当に、なにか、おこたか、知るよしもありません。原爆を、おとくた人
も、じは、はりかけそうだったのかも知れません。

ぼくが思うに、人間は、欲に弱いと思います。なので、平和は、な
いと思いましたが、けんしも、ノースマンが考えること、原爆のことを、知るこ
と、池田サスエの仕事は、すばらしい仕事だと考えられています。
これか、もが、ムバって、みてくれたらいい。

池田直徳さんへ

原爆が投下された日の突然起きた出来事を体験した人の気持ちも考えてみました。するととても悲しくなってきました。想像するのが嫌になりました。

燃えて焼きただれた皮、ふとした水中で熱せられた人々のうごきをとると、はれてとれてしまふ、そんな話を聞いて、原爆は想像していたより恐い、物なんだと、改めて思いました。なぜ日本だけなんだと疑問も出て来ました。

こんな話を聞いて心が痛みました。とてもひどいと思います。広島の人24万人もの人の命をうばい、いくリトルベイにのっていた思いのんを見て、とても腹が立ちました。同じ様な苦しみを与えてやりたいです。

今平和な毎日を過している自分かとても幸福に思えてきました。苦しむことなく、フコウして生きていられるのも、幸せだからだと思います。被害をうけた24万人に、幸せを与えたいです。

板坂 謙太

「ヒロシエの九日間」

池田貞徳さんへ

げんぱくをサ落ちる時に、4トンのぱくだんが落ちたところを聞いてすごいはいくりよくがあるんだと思いました。

次に、広島の子どものお母さんをお母さんをお母さんが助けただけで、そのお母さんをたすけたけれど、もう何もたすかななくて、
それでもかわいそうだと思いました。

ぱくだんたば、フフの足前の、しずみいかな、あつて、いるんだと思ひました。

さいしほくは、ブルフのたまご、4トンのぱくは、フがあるとき、いたと、タに、すむく、
どうきました。

ほかに、は、う、での、ひ、か、が、け、を、と、
な、な、め、に、よ、つ、た、り、と、あ、る、ひ、つ、る、
こと、ば、が、す、ご、い、お、ど、ろ、き、ま、し、た、。

六年二組坂本恵一

「ヒロシマの九日間」

池田 眞徳さんへ

「ヒロシマの九日間」を聞いて、私は、広島で起きた事がこんなにも悲惨だったというのを知りました。

広島に住んでいた人々は、どんな気持ちだったのか、私には想像できないほどの苦しみだったと思います。

池田さんの話を聞いて私は、感動したところがあります。それは、池田さんのお父さんたちがお父、お母、女性から来たお手紙のことです。

何年も時が過ぎてから来たお礼の手紙。その時本当に助けられてくれたうれしか、ただと思いました。

私は「平和」な時代に生まれたことがこんなに幸せです。ばらしいことなんだというのを改めて実感することかできました。そして、絶対に池田さんから聞いたことを忘れず、今、生きていることを大切にしたいです。

貴重なお話をしていただきありがとうございます。ございました。とてもわかりやすく理解できました。これからもたくさんさんの人に「ヒロシマの九日間」を伝えてください。本当にありがとうございます。ございました。

六年二組

安藤 えりな

池田と眞徳さんへ

私は、「ヒロシマの九日間」という話をきいて、ものすごく悲惨だな、と思いました。

池田さんのお父さんの活動で、いつの間にか10m以上もとばされていた、ということを引き、なぜアメリカの人はこんなにおそろしいものをつくり、そして人間に被害を及ぼすようなことをやるのか、とても疑問に思い、そしてとてもひどいな、と思いました。

私の塾の先生も被爆者二世で、池田さんのように骨が少し弱くて、ときどきいすにすわりながら授業をやります。先生は社会の先生なので、たくさん広島についてはなしてくれませんが、今日池田さんの話で皮ふがすぐにむけたりする、という話をきき、予想以上に大変なんだな、と思いました。

私は、二度とおこらないようにしていきたいと思いました。私は、今回の話をきいて「平和」を築くべきだと思いました。

三木智裕

池田 眞徳さんへ

「ヒロシマの九日間」の感想文

ぼくは、池田さんの話しをきいて、なぜ日本だけにこんなむげいを受けているのかなと思ひました。あと、いつから原爆をおとされるようになったのかなとも思ひました。なぜそう思つたかというところ、ぼくのうまれる前のことで池田さんのお父さんの体験したことでだからです。

ぼくが話しをきいてこうすればいいなと思つたことは、広島に山をふやせ、はよいと思つた。どうして長崎に山があつて広島にないのかなと思つた。

ぼくは、原爆のことはよくしらなかつたがうしれてよかつた。アメリカは、ひどい国だなと思つた。人のひふがはがれてしまふなんてところもクロテスリだなと思ひました。

これからも池田さんには、原爆のしらない人のために原爆をおしえていつてもらひたいなと思ひました。

第三亀戸小学校

六年二組 辻川 一輝

池田 眞徳さん へ

「ヒロシマの九日間」を聞いて、私は思ったことがあります。それは、なんでアメリカの軍用施設が広島にないだけで原爆をおとされて、何人もの人たちが、全身にやけど、顔の半分などが大やけど、ひふがむけてる人かいたというのかすくなく無残でかわいそうだと、関係ないのに原爆をおとされて死んでしまったり、やけどでひふがめくられていたりしてるのに、アメリカの人たちはひびいと思いました。私たちは原爆をおとされていない平和なときの日本にうまれてよかたと思いました。それに、私はあまり平和について考えたことがなかつたし、原爆がどんなにくくて、危険なのがよくわからなくて、その時代の人たちがどんな思いで、生きていたのかかわからなかつたのです。今日、池田さんかおはなしとして、くださったことを聞いて、原爆のおそろしさ、こわさなどがよくわかりました。今日、池田さんかおはなしをしてくださったことを、次の学習でいかしたいと思えました。そして私は、最後に、日本を平和で原爆のようなことがない国にしたいと思えました。今日、原爆のおはなしをしてくださって、本当にありがとうございました。

第二亀戸小学校

六年二組 三浦 紗季

「ヒロシマの九日間」

池田 貞徳さんへ

私は池田さんの話を聞いて、原爆のおそろしさを初めて知りました。私は今まで「原爆」という言葉は知っていたけれど、原爆はこういうものでどれだけおそろしいか知りませんでした。でも池田さんの話を聞いて、原爆によってたくさんの方が死んでしまったり、死にそうになっている人をただ見つめることしかできない人がいたことを知りました。原爆によって死んでしまった人は、とても悲しい気持ちだ、と思うし、死にそうなる人を助けることができなかった人も、やさしい気持ちでいっぱいだと思います。

私はそんな人たちがいたことを知って、自ら命を落とす人がたくさんいるということをお出ししました。そういう人たちはとても、たいないことをしていると思いました。

だから私は、命を大切にして、原爆によって死んでしまった人たちのことをつねに頭の片すみにおいて生きていきたいと思いました。

池田 貞徳さんへ

私は、「ヒロシマの九日間」を聞いて、日本でこんな
でキーンとおきていたとは、知りませんでした。
兵は戦ったり、人をたすけることしかしないと心に
いしましたが、爆発のあとの片付けや、死体をはこんで
焼いたソすることを初めて知りました。

「ヒロシマの九日間」で一番いんげんに残ったのは、
人の皮がはがれて、赤い肉がでてきて、手には、その皮
が残るというところですよ。

やけどをして、体じゅうの皮がもろくなって、ひっける
だけでむけてしまい、そのむけた所は、赤い肉と、
黄色のウミがみえ、皮がむけた人は、ひどい痛
みにおそわれ、ころげおちる。私はそんな体験
はないからいえるのた、と思いますか、その人は、とてもきれいなと
苦しんでいても、その苦しみが、わかってあげられません。

しかも、その人たちをすくおうと、ひっして、トラックにのせて
あげるといふことは、私だったら、あせんとして、こめく
見捨てて、しまい、あとでたすけてあげればよかったと
こうかいるのでしよう。私は、このとき苦しんでいる人をた
すけてあげて、あとでこうかいをしないうつにしていきた
いと思ひました。

私は、こんな実話を聞いて、とてもよかったです。
日本でこんなことがあきているのかをもっとしりたいです。
今回は、「ヒロシマの九日間」を読みました。ありがとうございました。

池田 眞徳 さん へ

ほくは今回の「ヒロシマの九日間」のお話を聞いて思ったことがいくつかあります。

一つ目は、広島に原子爆弾が投下された理由が分かったことです。

二つ目は、なぜ、広島市の原爆投下が終わった三日後に、小倉ではなく、長崎に原爆が投下されたのが、不思議に思いました。

三つ目は、ゴルフボールうら分、広島市街をこわせる爆弾を作って、なにが楽しいのか、なと思いました。

最後は、もし自分が、その場にいたら、現実逃避したくなり、ほくになり、絶対に、ま、に、あきらめて、おもうと思いました。

今日のお話で、新しい昔の悲しい歴史、数々の疑問などが、できより、戦争の悲惨さなどを理解することが、できました。

今回は、本当に、ありがとうございました。

六年二組 中井 聖

池田と眞徳さんへ

ぼくは池田さんの話「ロシマのた日間」を聞いて僕はものすごく原爆のかなしみが大きい事がよくわかりました。僕は原爆はものすごい兵器だとは思っていませんでした。だが原爆で死んでしまうことはものすごくかなしい事だと思えます。原爆で皮がドロドロになっってしまうのは皮がドロドロになっただ人もものすごくパニックになっってしまう助けの方の人そきもちわるいのと助けた気持ちがいままでになっしまいました。と思います。

ぼくにはよくわかりないのですがやりたな事をやっでなくなっでいく人々はうれしそうに顔をこいていると聞いた事があります。ごまが原爆でなくなっただ人々はきつとかなしい事をこころに感じたりのかたがと思いました。原爆にすぐあたってなくなっただ人も原爆に当って苦しむ人も罪も無ハリのにちよとした理由で殺されてしまうのは、ものすごくやさしい、にくいし、くやししい、かなしいし、といういろいろなかんじようがわいてくると思えます。

ぼくはごまは罪もないのに、かきこれからが人生本番という人も殺されてきた事があったのかと心配になりました。うのがあります。そんなことをするのなら、ぼくの命とて罪もないのに殺された人々にあげればと思いましたが、ぼくは命を大切にしたい、生けん命生きていきたいです。今の日本はものすごく平和だと思えます。

池田 貞徳 さんへ

私は池田さんのお父さんが体験した事実を聞いて、池田さんのお父さんがすごいと思いました。すごいと思っただけはもうありません。一つ目は、全身にやけどをしたがトラックに手をかけた時助けてと叫びながら手を引、ばてたすけようとしたのがすごいと思いました。もしも私だったら、その手をわくわくしてふりはらってしまってもしれないと思いました。すごいと思っただけはもうありません。二つ目は、川原で、おこなわれた、死体の焼却です。私は、2日、3日間の死体を運ぶなんてすごいと思いました。しかも死体の横でゐるなんて、私にはできません。

私はこんなことが昔にあつたなんて、今のこの時代から、なにも資料を見ずに推測するなんて無理だと思われました。たぶん、原爆を落とした人も、すごいためらったんじゃないの？と思いました。

池田さん、昔の事実をお父様から受けついで、貴重な話をしてくださって、ありがとうございます。池田さんが白紙後に手紙は心のささえになると言っていたので、この手紙が池田さんの心のささえになんてくれることを願います。

今日はありがとうございました。

6年2組 大庭 桜子

池田貞徳さんへ

ぼくは、原爆の事実を知ってびっくりしました。まず、原爆のむがいを受けたのが日本だけだということです。日本に原爆がおちたというのは知っていただけで、他の国におとされたことがないというのには初耳でした。そして、原爆の放射線をあびたひとがなんらかの病気になったり、遺伝子にまでえいきょうがあるということです。そして、池田さんのように、その子供にもひがいがおよぶ、ということですよ。ひどいと思いました。原爆は人をくるしませたり、かなしませたりするだけなので、絶対にあってはならないと思いましたが、それにこんなことがおこるのは戦争のせいだと思えます。戦争というのは人の身をほろぼすだけだし、自分の欲のため他人にめいわくをかけるだけなのであってはならないと思えます。いろいろ知って、考えることができました。今日は本当にありがとうございました。

六年二組 柳下翔太郎

池田眞徳さんへ

「原爆を落としてはいけない。」

池田さんのお話しを聞いて見て、そう思いました。原爆を落とすと二〇〇万人の人が、けがや死んでしまったと知って、どうしてこんなことをするのだらうと思いました。何かあっても、人を殺してはいけない。そう思いました。命の大切さを、私はふり返りました。命は一度なくなると、もうもどかないだから大切にしなければ、そのことを改めて思いました。

原爆が落ちて、人が死んでしまつと、他の人は、悲しんで、おこで人々が戦争をおこしてしまうかもしれません。それは、相手かわもいやだと思つし、私達もいやです。

だから、原爆なんかなくなつて、やさしく、相手を思つ気持ちを
持てばいいと思ひます。きっと、大人のえらい方は、そんなことは
通用しないと思つたかもしれませんが、でも私は、この世界に
原爆や、争いがなく、他の人達が相手のことを思つ気持ちを持
てくれる、平和な日がおとされるような感じがします。

第二亀戸小学校

六年二組

冨田

由里

池田と國六徳さんへ

久保田純至

ぼくが話を聞いて思ったことは

義三さんはすごいと思います。

大ケガをしている人もすぐに立ちあがり、死体をはこぶ仕事もふつうの人たちと同じくらいで、でオチなんでしょう。

ぼくはこの時代に住んでよかったのです。

あと、太陽はなぜもえつづけているかとかは、さんのひみつなどをおしえてくれようが、とラッパいいます。

ぼくの中で一番いんげんたのは

20代くらいの女の子の人がカキカキをしていて、虫がめいておきたと言ったことです。

ところが、つしただけおわりです。

それをちりやうびきるのが、義三さんはすごいと思います。

池田貞徳さんへ

「原爆」って何がよく分からなかった。

でも、何だかとても恐い物だっと思っていた。

話を聞いていて、作った本人も恐かったんじゃないかって、思っていた。

原爆が爆発した後のけむりは、赤黒紫のような、トス黒い色

だった。一言でいまして、その色は悲惨な戦争の色だ。

行く途中で気がつく助けようとして、手を引くように

皮がむけてしまった。惨い。自分の自分になえらもなく

死にたい。そう言ってしまうだろう。何も悪いことをしてない

のに、かわらず、地獄に落ちたみたい。

そんなこと誰もしては、いない。そう思う。

戦争を終わらせようとしたけんが、言葉を使えば、

良かったんじゃないかな。それも、日本が悪かったのだから。

言葉も使って、謝まらなければいけない。ぼくは全部、日本が

悪いとは、言わないけど、絶対にみんなを仲よく平和にできた

と考えてみた。

池田さんのお父さん、池田義三さんが帰る途中で、

助けた女の人のふくらまは、蠅の幼虫、蛆虫が居たなんて

いって、怖い。体中に居たら、生きた心地しないだろうって、

想像して、聞いたことあるけど、痒くてかいたら、

皮が痛くて。

その女の人、はよくたえていて、すごいえらいなって、強い人だなんて、

思った。

お入ぶして、生エた人間の暖かさを感じて嬉しかった。無かったんだろうな。

この後、みんなに後れて、どんな気持ちだったのか、どんな風に昔のことを懐いたのか、ぼくには、分からない。

原爆の思い出なんて、悲しくて、痛痛しい惨い思い出なんだ。でも、原爆の思い出も、忘れたら、また、繰り返す。だから、忘れないようにする。そういう発想で、思い出のついで。

それで、戦争が無くなって、みんな優しく、仲よく、楽しく、やっていかないかな。理想で終わりたいかな。

そのためには、難かしいことは、よく分かるけど、

この日本国がやることは、思えんけど、他の国が戦争しなかったら、何か何でも、友好して、言葉で終わらせたい。

也田に眞徳さん、原爆の事実のことを話してもらって、来てくれて、ぼくは、簡単に死んでほしい。と本当に思いました。

最後までありたい。と、思いました。